

研究協力に関するお願い

テーマ：発達性読み書き障害のある小学生群における漢字単語音読の誤反応分析

NPO 法人 LD・Dyslexia センター
スタッフ 高崎 純子

1. 研究の背景と目的

発達性読み書き障害（発達性ディスレクシア）は、限局性学習症（学習障害）に該当し、日本での出現率は約8%（Uno et al.2009）という報告もあります。そのため、通常学級に在籍する発達性読み書き障害の児童生徒も多いと思われませんが、教育現場では、発達性読み書き障害かどうか判断することが困難な現状があります。発達性読み書き障害の読み書きにおける特徴を明らかにすることができれば、教育現場の教員が、発達性読み書き障害に気付くための有用な指標になると思われま

す。これまで、日本語話者の発達性読み書き障害のある小学生群の漢字単語音読の誤反応分析に関しては他の単語に読み誤る語性錯読（例：商売→しょうひん）や無反応が多く、文字単位での読み方は正しいものの、単語単位では誤った読み方をしているLARC（Legitimate alternative reading of components）エラー（例：火山→ひやま）が少ないという報告（明石ら，2013）や、無反応が多く、語性錯読やLARC エラーが少ないという報告（Sambai et al., 2023）があります。これらの先行研究では、誤反応の種類に関して検討されていますが、錯読内容の詳細については分析されていません。発達性読み書き障害群の漢字音読における習得の特徴を捉えることにより、漢字の読みに困難を抱える児童の指導や支援に役立てることができるのではないかと

思われます。そこで今回、発達性読み書き障害児特有の漢字音読の誤反応や特徴をより詳細に捉えることを目的として、調査を行うことといたしました。調査についてご理解の上、データの使用をご許可いただけますようお願いいたします。

2. 研究の意義

本研究により、発達性読み書き障害児特有の漢字音読の誤反応や特徴をより詳細に捉えることで、通常学級においても発達性読み書き障害がより適切に発見できる可能性があり、その後の早期介入へとつなげることができると考えられます。また、発達性読み書き障害の漢字音読の指導方法の開発の一助になると考えられます。

3. 研究の方法

読み書きの困難さを主訴として NPO 法人 LD・Dyslexia センターに来所された、読み書きのトレーニングを受けている、もしくは受けていた児童で、小学2年生から6年生の児童（50名以上）を対象とします。記録されている臨床カルテをさかのぼり、下記のデータを使用します。

データ：性別、検査実施時の年齢と学年、LD・Dyslexia センターで実施した読み書き検査や、読み書きに関わる認知機能検査のデータ、発達に関わる過去の情報

※直接個人を特定する情報はありません。

4. 研究期間

「NPO 法人 LD・Dyslexia センター研究倫理審査委員会」での承認後から 2027年3月30日までとします。

5. 倫理的配慮

NPO 法人 LD・Dyslexia センター研究倫理審査委員会にて審査し、承認を得た後に実施いたします。NPO 法人 LD・Dyslexia センターのホームページで伝え、ホームページに掲載された不承諾書あるいは電話、メール等による不参加の意思が確認されない場合に実施します。過去の臨床データを使用するため、研究対象者に課題実施時に伴う肉体的、精神的負担は生じません。

参加は自由であり、参加しないことによって一切の不利益を被りません。データは匿名化して取り扱い、紙は PDF 化し、研究者以外にアクセスできない LD・Dyslexia センター内のパスワードのかかるクラウド上に保管します。データは 5 年間保管しその後に、復元不能な状態で廃棄します。

6. 研究結果の公表

研究終了後、速やかに関係誌に投稿予定とします。

7. 不同意の場合

添付の不承諾書のメールでの送信、もしくは電話、e-mail のいずれかの手段にて、2025年4月30日までに同意されない旨をお知らせいただけますようお願いいたします。

連絡先 〒272-0033 市川市市川南 3-1-1 アプロード市川 315 号

TEL 047-326-5006, FAX 047-326-5006

e-mail:junko_a16@yahoo.co.jp

高崎 純子